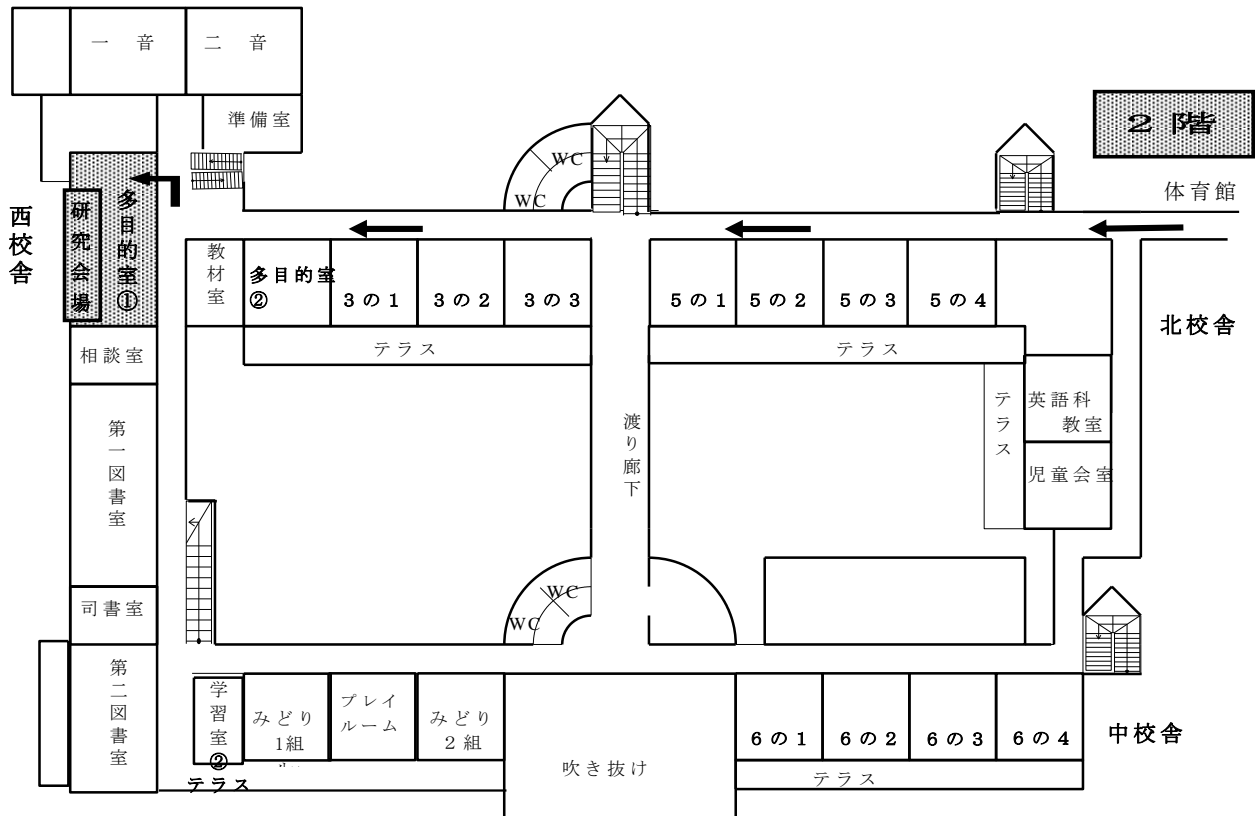
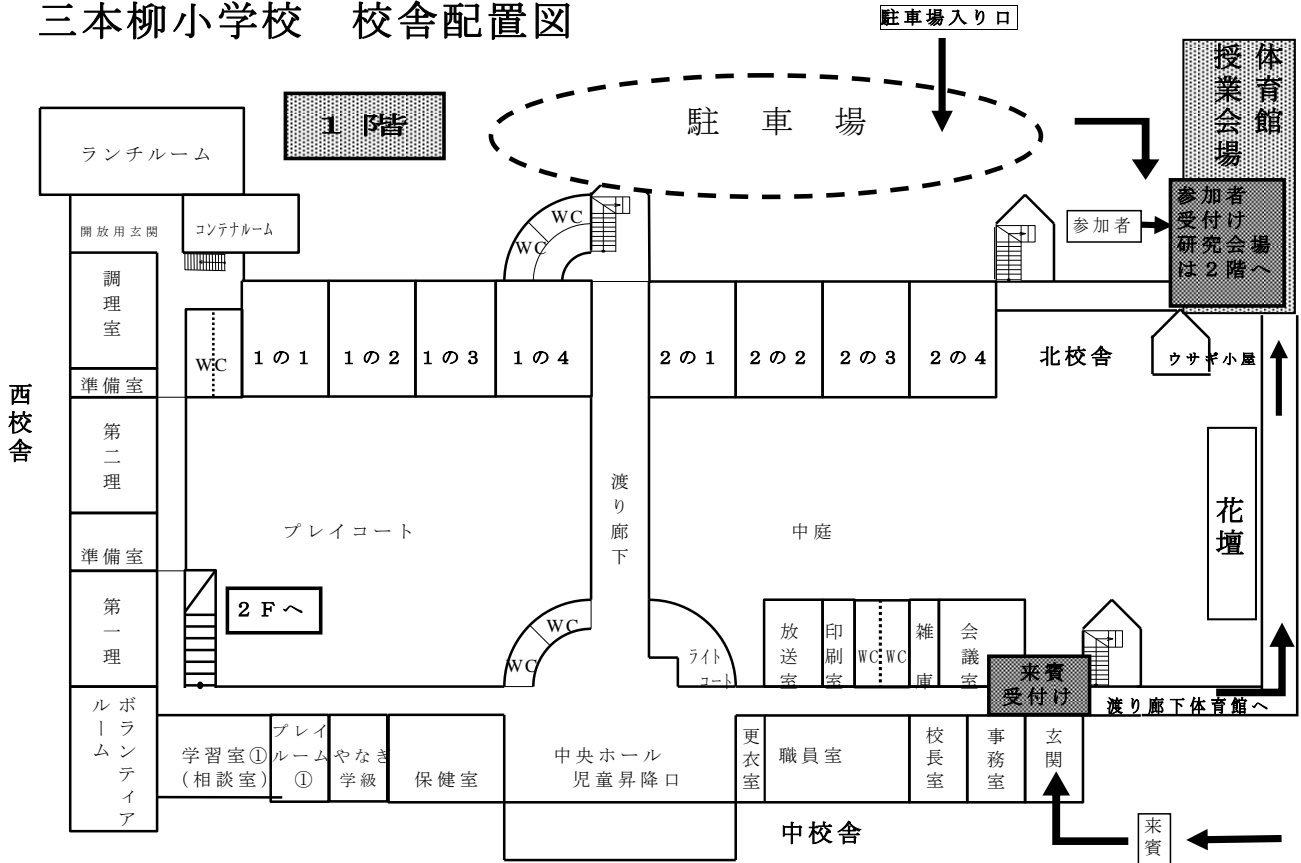


三本柳小学校 校舎配置図



授業会場 体育館

研究会場 (控え室) 多目的室① (西校舎 2F) 体育館から2階へあがって、西校舎まで直進。

I 学校のめざす子どもの姿

水と緑と陽光に愛され、人のやさしさのわかる子ども
「智」 生きる知恵 「仁」 思いやり 「勇」 心の強さ
令和6年度 「この一歩が創り出すわくわくする未来」

II 本年度の重点

自ら学び続ける力を育むための授業づくりのあり方

～自分で考え、伝えあい深める～

本年度三本柳小学校では重点の一つである「自分で考え 伝え合い深める」を具体の姿とするために「聴く 受け止める」姿勢を大切に、教師も子どもも互いに思いを聴き合うことをベースに授業づくりに取り組んでいる。

- ① 授業の中で、子どもが友だちの考えを「知りたい」「聴きたい」と思えるような学習環境づくり
- ② 教師も子どもも「わからない」という気持ちを大切に、「どこがわからないのか」その気持ちを受け止め、子ども同士で語り合いながら問題解決に向かっていくような授業のあり方
- ③ 教職員一人ひとりが自己テーマをもち、それをもとにした授業づくり

III 本年度の研究のあゆみ

「子どもを変える」から「子どもの環境を変える」へ

令和5年度より、共同研究者の三重大学教授の岡野昇先生とともに、子どもたちの姿について語り合い、まずは授業の中で子どもが友だちの考えを「知りたい」「聴きたい」と思えるような環境づくりや、子ども同士で語り合いながら問題解決に向かっていくような授業のあり方について共同研究を行ってきました。その中で、岡野先生からは、これまでの「子どもを変えていく」という発想から「子どもの環境を変えること」で、子どもの能力を引き出していくという発想の転換についてご助言をいただき、子どもたちが「主体的に学べる」環境づくりに焦点を当てて研究に取り組んでいます。



教室環境については、子どもの主体性を生み出す視点から、子ども同士で伝え合い、学びを深めるための座席の工夫、子どもたちが主体的に学習に取り組める教室環境の工夫を行ってきました。また、教師も子どもたちにとっては学習環境のひとつであることから、「子どものわからなさを聴いて、受け入れ」それを「繋げる」「広げる」といったことを大切にした関わりを意識しています。

全校で学習環境の改善に取り組んできたことで、教師の言葉がけや、授業の展開にも少しずつ変化がみられるようになりました。昨年度は「算数」の授業づくりを中心に研究を進め、関わり、学び合える場づくり、教材研究について意識が深まりました。

今年度の公開授業では、新たに体育の授業における授業づくりに挑戦し、その中で、子どもたちが、聴き合う関係、学び合う関係を築き、子どもたち同士がつながっていくことができるような学習環境について提案し、子どもの様子から、たくさんのご意見をいただくことで、子どもたちが主体的に取り組める学習環境について視野を広げていきたいと考えています。



IV 自己テーマ（授業者 清水 将斗教諭）

「子どもたちの言葉・思い・考えをつないでいく授業」

- ① 安心して自分の考えを話したり自分を表現したりできる子ども同士の関係づくり
- ② 子どもの疑問や困り感、動きや考えの良さを全体で共有し、理解を深めていく授業のあり方



<自己テーマによせて>

2年4組の子どもたちは、友だちを思いやり、全員が「楽しく学習したい」「色々なことに挑戦してできるようになりたい」という共通の意識があり、お互いを認め合う雰囲気の中で学習に取り組む姿がある。しかし、相手によっては安心して自分の



考えを話したり自分を表現したりすることができず、そのことから学習に取り組みにくい姿が見られる。

例を挙げると、体育の準備運動や学級の時間等に行った鬼遊びで、だいたいの児童が喜んで取り組むものの、「タッチをしたのに逃げた」「一人狙いをされた」「はさみうちをされた」といった不満をもち、友だちとうまく関わることができずに困惑している児童がいる。こうした姿から、誰が相手でも、どんな場面でも、安心して学習できる関係性を作りたいと考えた。その上で、「認め合う雰囲気の中で学習できる」という良さを生かして、子どもたちの疑問や困り感・良いところを共有し、理解を深めていくことができる授業を目指したい。



といった不満をもち、友だちとうまく関わることができずに困惑している児童がいる。こうした姿から、誰が相手でも、どんな場面でも、安心して学習できる関係性を作りたいと考えた。その上で、「認め合う雰囲気の中で学習できる」という良さを生かして、子どもたちの疑問や困り感・良いところを共有し、理解を深めていくことができる授業を目指したい。

第1時	第2時	第3時	第4時	第5時（本時）	第6時
しっぽとり	ことりおに	ひめおに	宝をはこぼう①	宝をはこぼう②	宝をはこぼう③

はじめ

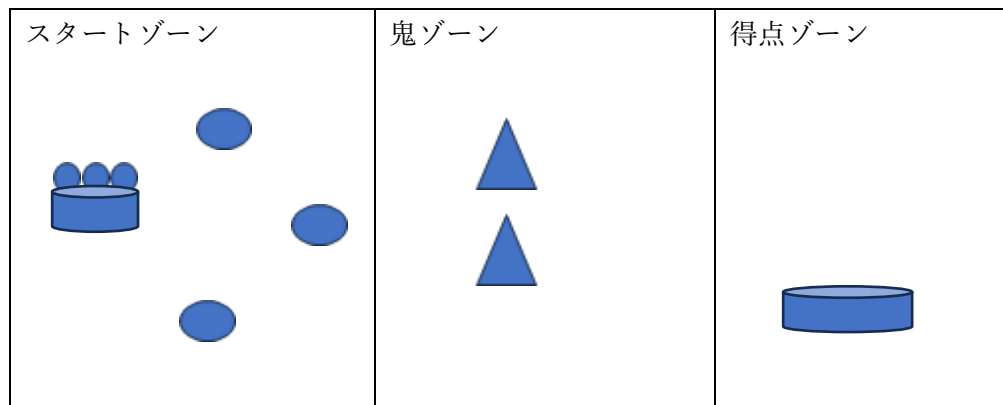
【ねらい】

「タッチされずに宝を運ぶことができるかな」
 仲間と連携して「相手をかかわす」、「空いてる場所をねらう」ことをして、タッチされずに宝を運ぶ方法を考えることができる。

なか

学習問題【タッチされずに宝を運ぶことができるかな】

<タッチされずに宝を運ぼう>宝はこび鬼



<行い方>

- 時間は2分
- 攻撃者（●）は守備者（△）にタッチされたら、スタートゾーンにもどる。
- 得点ゾーンまで行けたら、玉をかごに入れ、スタートゾーンにもどる。
- 攻撃者2人、守備者1人の3人グループをつくる。
- 攻撃者は玉を1個ずつ持つ。

おわり

【本時子どもたちが追究すること・学び合い】

- どうしたら鬼をかかわせるかな
- 鬼のいない場所に向かって走ろう
- 私が鬼をひきつけるよ。そのすきをねらおう
- 二人で一人を追いつぎるとその間に通られちゃう。追いつぎないようにしよう
- 宝をゴールまで運べるように仲間と協力しよう

R 6 三本柳小学校周辺地図 駐車場案内



三本柳小学校

駐車場のご案内

